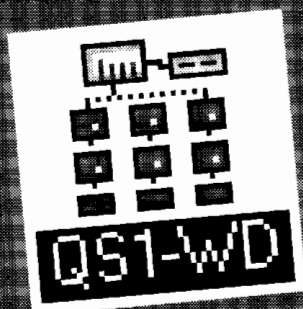


# YAMAHA

# Q51-WD

デジタルイコライザーコントロールソフトウェア



*for Windows*

# ユーザーマニュアル

ヤマハ株式会社

## ソフトウェアのご使用条件

### ヤマハ株式会社

ヤマハ株式会社(以下、弊社といいます)は、提供するソフトウェア製品に関し、お客様に対してその使用を下記条項に基づき許諾し、お客様も下記条項をご同意の上ご使用いただくものとします。

#### 1. 定義

本使用条件の対象となるソフトウェア製品(以下、本ソフトウェアといいます)とは、本製品に含まれるコンピュータプログラムをいいます。

#### 2. 使用許諾

本ソフトウェアの著作権は弊社が有し、弊社は本使用条件に基づき、お客様に対して、日本国内における本ソフトウェアの譲渡不能かつ非独占の権利を許諾します。

#### 3. 使用内容

- (a) お客様は、本ソフトウェアを本ソフトウェアに付属の取扱説明書に記載のコンピューターおよび関連機器の環境下においてのみ使用することができるものとします。
- (b) お客様は、本ソフトウェアをバックアップとして保有する場合に限り、複製することができます。
- (c) お客様は、本ソフトウェアについて、リバース・エンジニア、逆コンパイル、逆アセンブルまたはいかなる改変もしないものとし、それに起因する損害について弊社は一切の責任を負いません。

#### 4. 保証

- (a) 弊社は、本ソフトウェアが付属の取扱説明書に従って実質的に作動せず、或いは本ソフトウェアが納められている媒体や印刷物に物理的な欠陥があった場合は、お買い上げ後1年以内に限り無償にてお取り替えいたします。但し、弊社がその欠陥を弊社の責に帰すべきものであると認めた場合に限りです。
- (b) 弊社は、本ソフトウェアの使用または使用不能によりお客様または第三者が被つたいかなる損害についても一切責任を負わないものとします。

#### 5. 使用許諾の解除

お客様が本使用条件に定める条項のいずれかに違反した場合、弊社は本ソフトウェアの使用許諾を解除し、お客様のご使用を終了させることができます。その場合、お客様は本ソフトウェアおよびその複製物をお客様の負担にて速やかに返却していただくこととします。

弊社はその他の法的措置をとることもあります。

#### 6. 管轄裁判所

本使用条件に係わる紛争は、弊社の本社所在地を管轄する裁判所をお客様合意の管轄裁判所として解決するものとします。

※Microsoft、MS、およびMS-DOSは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。  
Windowsは、米国Microsoft Corporationの商標です。

## 目次

はじめに .....	1
ごあいさつ .....	1
QSIとは? .....	1
特長 .....	1
本ユーザーマニュアルについて .....	2
パッケージの内容 .....	2
ユーザー登録 .....	2
コンピューターシステムの動作環境 .....	2
プログラムディスクのバックアップ .....	2
<b>第1章 基本操作</b> .....	3
QSIに必要な環境 .....	3
システムの接続 .....	3
システムの設定 .....	3
デバイス(デジタルイコライザー、DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006)の設定 .....	4
QSIのインストール .....	4
QSIの起動 .....	4
ダミーデバイス .....	5
デバイスが認識されない場合 .....	5
QSIの終了 .....	5
<b>第2章 デバイス(デジタルイコライザー)</b> .....	6
デバイスとは? .....	6
アドレスとは? .....	6
デバイスの追加 .....	6
デバイスの削除 .....	7
デバイスのセーブ .....	7
デバイスデータのロード .....	8
デバイスエディット .....	9
デバイスウインドウ .....	9
イコライザータイプ .....	10
パラメーターリンク .....	10
バイパス .....	10
コンフィグ(Config) .....	11
デバイスウインドウのバックグラウンド .....	12
<b>第3章 ウインドウ</b> .....	13
デバイス/シーン .....	13
グラフィックイコライザー .....	13
EQオペレーティングモード .....	14
パラメトリックイコライザー .....	15
Eq. Com .....	17
フィルター .....	19
周波数曲線 .....	20
ユーティリティ .....	21
タイムコードイベント .....	22

<b>第4章 プロジェクト</b> .....	23
プロジェクトとは? .....	23
新しいプロジェクトの作成 .....	23
プロジェクトへのシーンの追加 .....	23
カスタムシーンアイコン .....	24
シーンのエディット .....	24
シーンの切り替えの実行 .....	25
シーンの削除 .....	25
プロジェクトのセーブ .....	25
プロジェクトのロード .....	26
<b>第5章 バルクデータ</b> .....	27
バルクデータの受信 .....	27
バルクデータの送信 .....	28
マスターセレクト .....	29
<b>トラブルシューティング</b> .....	32
<b>用語集</b> .....	33
<b>付 録</b> .....	34
Confirmation Message .....	34
ConfirmのON/OFFに関係なく常に表示されるメッセージ .....	35
ダイアログBOX表示について .....	36
Warning Messages .....	36
エラーメッセージ .....	38
<b>索 引</b> .....	40

## はじめに

### ごあいさつ

このたびはヤマハQS1-WDデジタルイコライザーコントロールソフトウェアをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。QS1は、ヤマハサウンドシステムコントローラーソフトシリーズの一つで、大規模なサウンドシステムでも小型のシステムでも簡単にコントロールすることができます。インストールの前、またはご使用前に、本ユーザーマニュアルをよくお読みください。

### QS1とは？

QS1-WDデジタルイコライザーコントローラーはウィンドウズ用のアプリケーションで、デスクトップやラップトップのコンピューターからヤマハのデジタルイコライザーを制御します。QS1はヤマハデジタルイコライザーDEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006の各モデルをコントロールします。

QS1は31台のデジタルイコライザーのパラメーターを制御します。イコライザーはそれぞれ7つのグループに分けられ、各グループには31台まで入ります。QS1を走らせるコンピューターは理想的なリスニングポジションに置けるので、サウンドエンジニアは音をモニターしながら調整することができます。QS1プロジェクトによってイコライザーデータの管理が簡単になり、プロジェクトデータをディスクにセーブしたり、後で呼び出したりすることも可能です。データのセーブやロードは、接続機器すべてを対象にすることも、個別機器ごとに行うこともできます。

各プロジェクトには全部で100のシーンが入ります。シーンを使うと、アクティブなイコライザーすべてのシーンメモリーを一括して呼び出すことができます。各シーンには適当なアイコンを指定し、そのアイコンをダブルクリックすると、シーンが切り替わります。

ユーザーフレンドリーなQS1のGUI(グラフィカルユーザーインターフェース)の採用により、イコライザーの本体上でコントロールを行っているような感覚で調整ができます。たとえば、スライダーはマウスを使って動かし、ボタン類を押すには画面上でクリックします。コマンドはプルダウンメニューから選んで実行することができます。

接続イコライザーに対応して、グラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザー、フィルターのウインドウを同時に開けることができるので、複数のイコライザーの設定が簡単にできます。カーブウインドウでは、選択したイコライザーの総合周波数特性を表示し、EQ調整をビジュアルに確認することができます。

### 特長

- ヤマハデジタルイコライザーをステージ外からコンピューターでリモートコントロール
- ヤマハデジタルイコライザーDEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006に使用
- 31台のイコライザーのパラメーターを画面上でコントロール
- データをディスクにセーブ、後で呼び出しが可能
- データのセーブ、ロードは接続全機器でも個別機器でも可能
- プロジェクトで簡単なデータ管理
- 各プロジェクトに最高100までシーンを登録
- シーンアイコンをダブルクリックして、31台までのイコライザーの指定プログラムを同時に呼び出し
- シーンに適当なアイコンを指定してわかりやすく表示
- 複数のイコライザーウインドウを同時にオープン
- GUIによるユーザーフレンドリーな操作性
- プルダウンメニューでコマンド選択

## 本ユーザーマニュアルについて

本ユーザーマニュアルは、お使いになる方々がウィンドウズの基本知識と、「ポイント」、「クリック」、「ダブルクリック」、「コントロール・メニューボックス」、「ドラッグ」といった用語の知識とをすでにお持ちであることを前提にして書かれています。このような用語に付いての詳細は、お手元のウィンドウズのユーザーズガイドをお読みください。

IFU485とデジタルイコライザーの取扱説明書も併せてお読みください。

## パッケージの内容

QS1パッケージには次の品目が入っていますので、ご確認ください。

- オフィシャルユーザー登録カード、プログラムディスク (3.5インチ2HD)
- 本ユーザーマニュアル
- IFU485インターフェースユニット
- IFU485取扱説明書
- ACアダプターPA-1B

## ユーザー登録

同梱のオフィシャルユーザー登録カードに必要事項をご記入の上、送付してください。ユーザーサポートが受けられます。

## コンピューターシステムの動作環境

- **IBM-PC DOS/Vまたは互換機**
  - i80486 66MHz以上
  - VGAまたはSVGAウィンドウズ互換モニター (カラーモニターを推奨)
  - 3.5インチ、1.44MB フロッピーディスクドライブ
  - ウィンドウズ・コンパチブルマウス
  - MS-DOS5.0/V、IBM DOSJ5.02/V以上
  - MS-ウィンドウズ 3.1以上
  - RAM空容量 最低4MB (推奨6MB以上)
  - ハードディスク空容量 最低5MB

QS1はウィンドウズV.3.1がインストールされているIBM-PC互換コンピューターであれば動作します。

- **PC9800シリーズ (PC9821相当機)**
  - i80486 66MHz以上
  - 標準PC9800シリーズモニター
  - 3.5インチ、1.2MB フロッピーディスクドライブ
  - PC9800標準マウス
  - NEC MS-DOS 3.3以上
  - MS-ウィンドウズ 3.1以上
  - RAM空容量 最低3MB (推奨6MB以上)
  - ハードディスク空容量 最低5MB

## プログラムディスクのバックアップ

QS1をインストールする前に、オリジナルのQS1プログラムディスクをバックアップし、このバックアップディスクを安全な場所に保管してください。ディスクのコピーについては、ウィンドウズの取扱説明書をお読みください。

## 第1章 基本操作

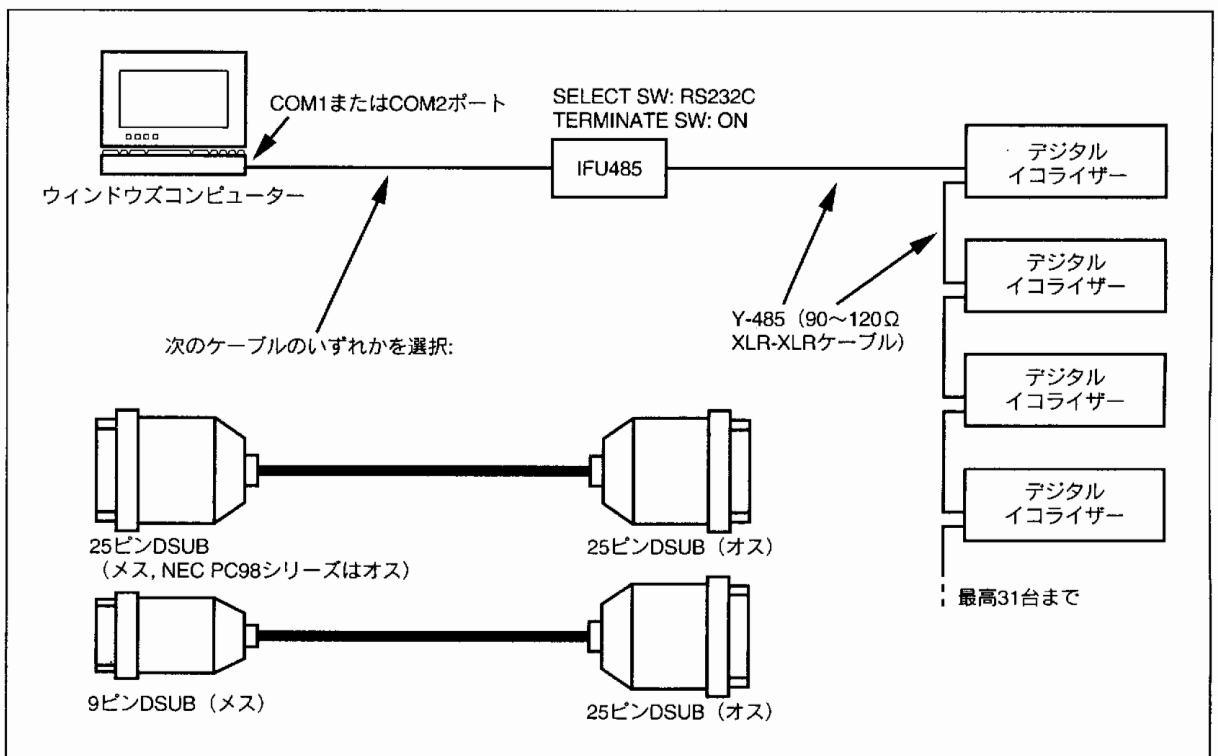
本章ではQS1システムのセットアップ方法、QS1ソフトウェアのインストールと起動について説明します。

### QS1に必要な環境

- ウィンドウズをインストールしてあるコンピューター (2ページ「コンピューターシステムの動作環境」をお読みください。)
- 25ピンー25ピン、または9ピンー25ピンDSUBケーブル
- ヤマハIFU485インターフェースユニット
- XLRーXLR AES/EBUデジタル・オーディオ・ケーブル (推奨90~120Ω)
- ヤマハデジタルイコライザー最低1台 (DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006)

### システムの接続

次の図は基本的なQS1システムの設定方法を示しています。



### システムの設定

以下の基本設定に従ってください。詳細は、IFU485およびデジタルイコライザーの取扱説明書を参照してください。

- IFU485のSELECTスイッチをRS-232Cに設定します。
- IFU485がネットワークの末端の機器である場合は、TERMINATEスイッチをONにして終端します。

## デバイス (デジタルイコライザー、DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006) の設定

- DEQ5, DEQ5E, YDG2030, YDP2006 ;  
Utility RS485 NETWORKメニューでボーレートを設定します (11ページ「コンフィグ (Config)」参照のこと)。ローカルアドレスナンバーも同じメニューで設定できます。  
RS485 COMM.I/OメニューでI/O CommをALLに設定します。
- DEQ5, YDG2030, YDP2006 ;  
リモートアドレスが使われていないアドレスに設定します。(例7.31等)  
リモートアドレスを\*マークに設定することは避けてください。
- DEQ5 ; リアパネルのMEMORY PROTECTスイッチをOFFにします。
- DEQ5E ; 最初にDEQ5あるいはQS1を立ち上げ、次にユーティリティ・ウィンドウでリモートアドレスを設定します。
- 各機器に固有のローカルアドレスナンバーをアサイン (割り当て) します (6ページ「アドレスとは?」をお読みください)。

### QS1のインストール

次に進む前に、2ページ「プログラムディスクのバックアップ」をお読みください。

インストールにはバックアップしたコピーディスクをご使用ください。

1. コンピューターの電源を入れます。
2. ウィンドウズをスタートします。(A: ¥>などのDOSプロンプトのあとにwinをタイプし、ENTERキーを押します)  
機種によっては自動でウィンドウズがスタートします。
3. QS1プログラムディスクのバックアップコピーをディスクドライブに挿入します。
4. プログラムマネージャーウィンドウでファイルメニューからアイコン (F) を選び、アイコンのメニューから“ファイル名を指定して実行”を選びます。
5. ダイアログボックスでA: setupなどとタイプし、setup.exeを起動させます。
6. ENTERキーを押します。
7. 画面の指示にしたがってください。

QS1のセットアッププログラムはYamahaというグループウィンドウを作成します。そしてQS1のアイコンがこのグループウィンドウに登録されます。

NEC PC98シリーズでは、COMの設定が必要です。(31ページ「PC98シリーズをお使いの方への注意」参照)

### QS1の起動

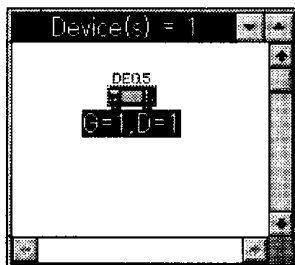
QS1を起動する前に、イコライザー全機器とコンピューターそしてIFU485の電源を入れます。

1. ウィンドウズをスタートします。
2. プログラムマネージャーウィンドウメニューからYamahaを選びます。
3. QS1-WDのアイコンをダブルクリックすると起動します。





QS1は起動時に接続されているデバイスを認識します。接続されているアクティブなデバイスのアイコンがデバイスウィンドウに表示されます。次のデバイスウィンドウは、DEQ5がアクティブになっていることを示しています。アクティブでないデバイスの場合にはアイコンの機種名の部分の背景がグレーになります。



## ダミーデバイス

ダミーデバイスをデバイスウィンドウに設定することができます。ダミーデバイスのコントロールはできませんが、イコライザーウィンドウを見たり、現在のプロジェクトに保存されているシーンデータを確認することができます。明日に大きなコンサートを控え、家にあるコンピューターでプロジェクトデータを確認したい場合などに、ダミーデバイスの設定は大変役に立ちます。

## デバイスが認識されない場合

QS1が接続されているデジタルイコライザーを認識しない場合は次の対策を行ってください。

- 全機器に電源が入っていることを確認
- 接続ケーブルを確認
- IFU485の設定を確認
- イコライザーの設定を確認
- QS1を再起動

**注意:** QS1の作動中は、決してIFU485やイコライザーの電源を切らないでください。QS1がクラッシュする恐れがあります。途中で接続されたケーブルをはずしたり、機器の電源を切るなどして正常に動かなくなった場合は、アンプのボリュームを最小にし、すべての電源を1度切って

1) デジタルイコライザー 2) コンピューター 3) IFU485 4) アンプ

の順番で電源を入れ、再びQS1を立ち上げ直してください。

## QS1の終了

QS1を終了するには、4つの方法があります。

- Fileメニューで“Quit (X)”を選ぶ。
- コントロールメニューボックスをダブルクリックする。
- コントロールメニューボックスをクリックして開け、“閉じる”を選ぶ。
- メニューウィンドウがアクティブのときAltとF4キーを同時に押す。(PC98の場合は、GRPHとf・4キー)

## 第2章 デバイス (デジタルイコライザー)

本章ではデバイス、Optionメニューのコマンドについて説明します。

### デバイスとは?

デバイスとはQS1で使用できるデジタルイコライザーのことを指します。

QS1は次のヤマハデジタルイコライザーに使用できます。

・DEQ5 ・DEQ5E ・YDG2030 ・YDP2006

デバイスデータはデバイスファイルに保存します。接続機器が1台か2台の場合は、デバイスファイルをデータ保存に使えますが、たくさんのデバイスを使った大がかりなシステムでは、データをプロジェクトとして処理することをおすすめします。一つのプロジェクトに対して、全機器のデータを一つのプロジェクトファイルに保存します。

### アドレスとは?

ネットワーク上の各デバイスには、固有のアドレスナンバーをアサインする必要があります。アドレスは、グループIDとデバイスIDの2種類から構成されています。たとえば、G=1, D=5は、グループ1のデバイス5を指しています。

**注意:** アドレスは重複しないようにしてください。QS1はアドレスが重複していても検知しません。複数のアドレスが重複していると、予期しない動作が起こることになります。

また各デバイスのリモートアドレスは使用しないアドレスをアサインしてください。

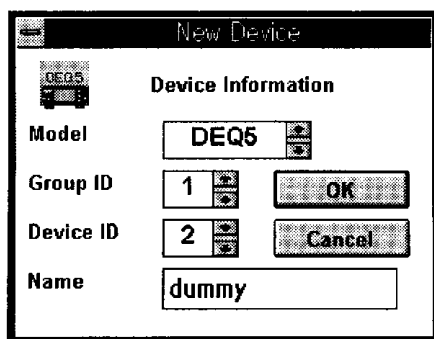
ブロードキャストアドレスなどは誤動作の原因になります。

### デバイスの追加

New Deviceコマンドを使って、デバイスウィンドウに新しいデバイスを追加することができます。通常は、QS1起動時にアクティブデバイスを自動的に追加します。試験用に、または現場以外でデバイスやプロジェクトのセットアップをするために、ダミーデバイスを追加することもできます。

#### 1. EditメニューでNew Deviceを選びます。

次のダイアログボックスが現れます。



**Device Information:** 選択したデバイスのアイコンを表示します。

**Model:** 上下の矢印をクリックして、モデル名を選びます。表示中のDevice Informationのアイコンをダブルクリックしても選べます。

**Group ID:** 上下の矢印をクリックして、グループIDナンバーを設定します。

**Device ID:** 上下の矢印をクリックして、デバイスIDナンバーを設定します。グループIDとデバイスIDは、使用可能なアドレスに順次、自動的に設定されます。

**Name:** 16文字までのタイトルを入力します。デバイス名がデバイスウィンドウの該当するアイコンの下に表示されます。(デバイスエディットウィンドウでも名前を付けることができます。)

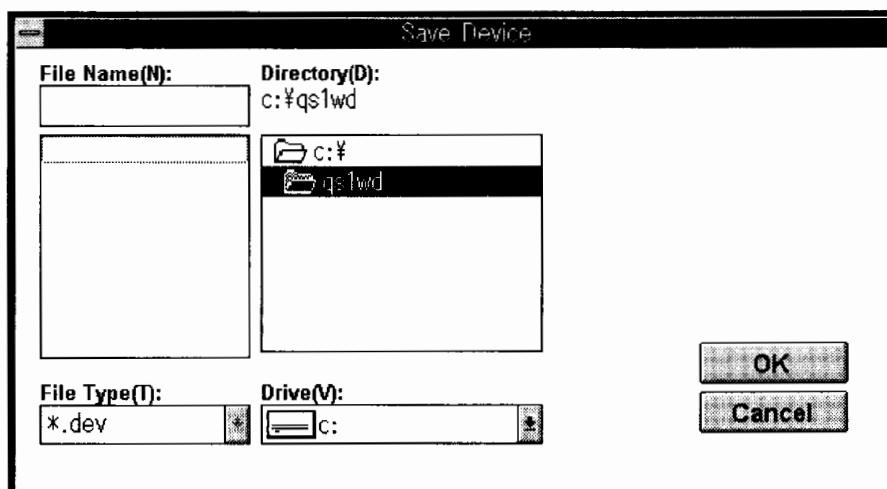
2. OKを押して、新しいデバイスをデバイスウインドウに追加します。

## デバイスの削除

1. デバイスウインドウで削除するデバイスを選びます。
2. EditメニューでDelete Deviceを選びます。  
メッセージボックスが現れます。
3. OKをクリックして削除するか、削除しないときはCancelをクリックします。  
注意: アクティブなデバイスは削除できません。アイコンがグレーになっているデバイスは削除できません。

## デバイスのセーブ

1. デバイスをセーブするには、デバイスウインドウでセーブしたいデバイスを選びます。  
選んだデバイスのアイコンの下にあるデバイス名が反転表示されます。
2. FileメニューでSave Device (F2) を選びます。  
ダイアログボックスが現れます。



3. File Nameのテキストフィールドをクリックします。
4. ファイル名をタイプします(最大8文字まで)。  
拡張子.devが自動で付きます。
5. OKをクリックします。  
注意: Config OptionのMaster SelectがDeviceのときはこの機能は使えません。

## デバイスデータのロード

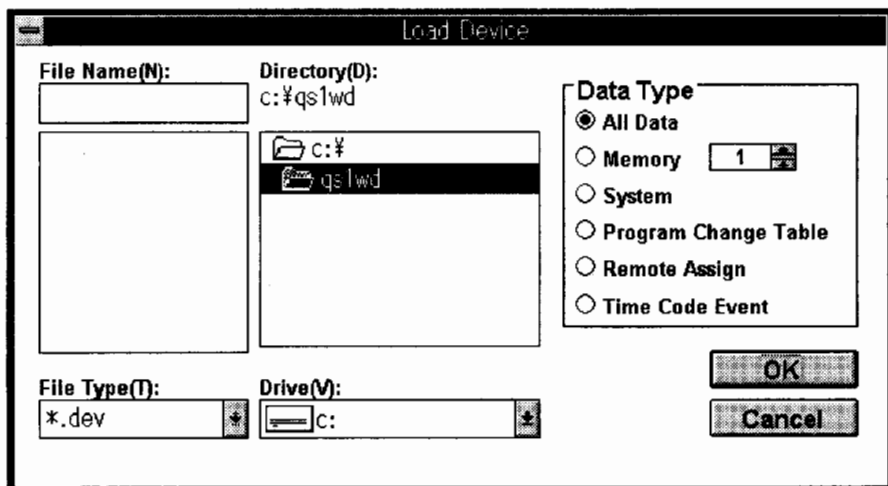
Loadコマンドを使って、個々のデバイスファイルからデータをロードします。

1. データをロードしたいデバイスをデバイスウィンドウで選びます。

選んだデバイスのアイコンの下にあるデバイス名が反転表示されます。

2. FileメニューでLoad Device (F1) を選びます。

次のダイアログボックスが現れます。



3. デバイスファイルを選びます。

4. Data Typeを選択します。

次のデータタイプから選びます。

**All Data** : すべてのデータ

**Memory** : 上下矢印をクリックしてメモリー(プログラム)を選びます。

**System** : システムデータ

**Program Change Table** : プログラムチェンジテーブルデータ

**Remote Assign** : リモートアサインデータ

**Time Code Event** : タイムコードイベントリストデータ

5. OKをクリックします。

指定したデータを、選んだデバイスへロードします。Master SelectがHostのときはロードと同時にデバイスに送信します。

**注意:** 異なるモデル間でのデバイスデータのやり取りはできません。たとえば、DEQ5のデータをYDG2030にロードすることはできません。

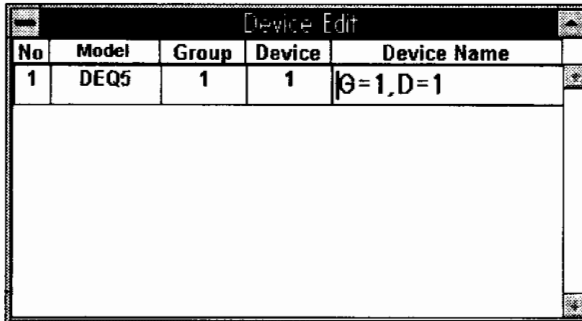
**注意:** Config OptionのMaster SelectがDeviceのときはこの機能は使えません。

## デバイスエディット

デバイスエディットウィンドウではデバイスウィンドウの中のデバイスの情報を表示します。

### 1. Editメニューでデバイスを選びます。

次のウィンドウが現れます。



No	Model	Group	Device	Device Name
1	DEQ5	1	1	@=1,D=1

デバイスエディットウィンドウは全デバイスのモデル、グループ、台数、デバイスの名前を表示します。デバイスの名前は16文字の範囲で変更できます。ただしENTERキーを押して初めて確定します。マウスやTabキーで項目を移動しても変更は反映されません。デバイス名はそれぞれ別個のアイコンの下に現れますからデバイスを確認するのに便利です。例えばStage Left、Side Fill Right、Drum Monというふうに使えます。

## デバイスウィンドウ

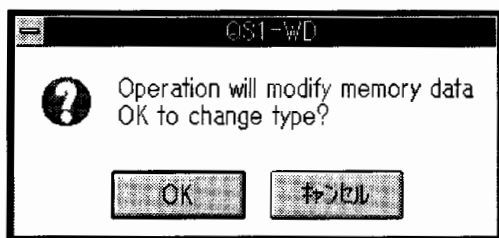
WindowメニューのDeviceコマンドとSceneコマンドを使って、デバイスウィンドウ、シーンウィンドウを選択します。一度に一つのウィンドウのみがアクティブとなり、現在選ばれているウィンドウメニューの名前の前にチェックの表示が現れます。

## イコライザータイプ

Graphic EqualizerコマンドまたはParametric Equalizerコマンドを使って、デバイスモードをグラフィックかパラメトリックに設定します。

**注意:** イコライザータイプ機能は、YDG2030とYDP2006では使えません。

1. デバイスウィンドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてイコライザーウィンドウをオープンします。
2. OptionメニューでGraphic EqualizerかParametric Equalizerかを選びます。  
現在のモード名の前にチェックの記号が表示されます。  
ダイアログボックスが現れます。



3. OKをクリックして続けるか、キャンセルをクリックします。

## パラメーターリンク

Parameter Linkingコマンドを使って、パラメーターリンクをオン/オフします。

**注意:** パラメーターリンク機能は、YDP2006のモノモードでは使えません。

1. デバイスウィンドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてイコライザーウィンドウをオープンします。
2. OptionメニューでParameter Linkingを選びます。  
パラメーターリンクをオンにすると、プルダウンメニューのコマンド名の前にチェックの表示が現れます。パラメーターリンクは、イコライザーウィンドウ、フィルターウィンドウでも設定できます。

## バイパス

Bypassコマンドでバイパスをオン/オフします。

1. デバイスウィンドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてイコライザーウィンドウをオープンします。
2. OptionメニューでBypassを選びます。  
バイパスをオンにすると、プルダウンメニューのコマンド名の前にチェックの表示が現れます。バイパスは、イコライザーウィンドウ、フィルターウィンドウでも設定できます。

## コンフィグ (Config)

コンフィグオプション (Config Option) ウィンドウで、様々なQS1設定を行います。

### 1. OptionメニューでConfig (Ctrl + C) を選びます。

次のウィンドウが現れます。

The screenshot shows a window titled "Config Option" with several control panels:

- Master Select:** Radio buttons for "Device" and "Host". "Host" is selected.
- Auto Polling:** Radio buttons for "On" and "Off". "Off" is selected.
- Protect:** Radio buttons for "On" and "Off". "Off" is selected.
- Confirm:** Radio buttons for "On" and "Off". "On" is selected.
- Port Select:** Radio buttons for "COM1" and "COM2". "COM2" is selected.
- Baud Rate:** Radio buttons for "9600" and "38400". "9600" is selected.

**Master Select:** コントロールマスター機器 (デバイスかホストコンピューター) を選びます。コンピューターでQS1を使っている訳ですから、通常はホストコンピューターがマスターコントローラーとなりますが、QS1をすでにできあがったイコライザーシステムに導入し、シーンデータなどが各イコライザーにすでに存在しているときに、このパラメーターを使うこともできます。マスターをDeviceからHostに変更すると、QS1はすべてのイコライザーからのデータをリクエストして受信します。こうして、QS1のデータが各イコライザーのデータと一致するので、これでQS1からのコントロールができるようになります。

**Master SelectがDeviceのとき:** (初期設定) デバイスデータがメインデータです。プロジェクトデータをロードすると、ロードプロジェクトウィンドウのParameter change On/Offでデバイスデータを変更するかどうかを決めます。ホスト上で行ったEQの調整は、デバイスに影響します。プログラムの呼び出しをホスト側から開始した場合、ホストはデバイスから該当するプログラムデータをリクエストします。デバイス側で開始したEQ調整やプログラムの呼び出しは、ホストにはエコーされません。

**Master SelectがHostのとき:** ホストデータがメインデータです。プロジェクトデータをロードすると、ホストデータとデバイスデータに影響します。プログラムの呼び出しをホスト側で開始すると、プログラムチェンジメッセージだけがデバイスに送られます。

**Protect:** デバイスのEQデータをプロテクトするパラメーターです。Offにすると普通に動きます。OnにするとEQの調整はできません。シーンチェンジのみ送信できます。

**Auto Polling:** 自動ポーリングのオン/オフの設定を行います。自動ポーリングがオンになっていると、QS1は定期的に各デバイスの状態をチェックします。

**Confirm:** 警告ボックスを表示させるか、どうかを指定します。Onにすると、警告ボックスは通常通り表示されます。Offを選ぶと、致命的エラーのときだけ警告ボックスが表示されます。

**注意:** 下記の2つのパラメーターを変更したときは、QS1をリスタートし直してください。

**Port Select:** IFU485を接続するコンピューターのシリアルポートを選びます。

**Baud Rate:** ボーレートを選びます。シリアル接続では、9600が一般的ですが使われるコンピューターによっては38400も使えます。

Protect=ONのとき次の機能は働きません。

- メニューの
  - "Load Device" "Save Device" "Bulk In" "Bulk Out"
  - "Device Edit" "Delete Device" "New Device"
  - "Delete Scene" "New Scene"
  - "Load Project" "Save Project"
  - "EqCom" "Filter" "Curve" "Utility" "Time Code"

"Graphic Equalizer" "Parametric Equalizer" "Parameter Linking" "Bypass"  
選択不可

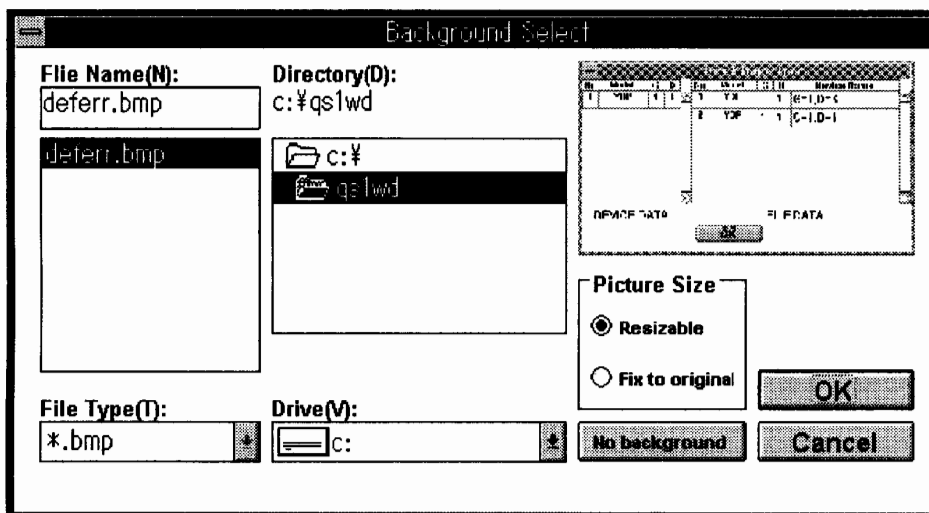
- デバイス画面を触れなくする。(イコライザー画面が開けない)
- シーンチェンジのとき  
プログラム変更後、新しいデータを読み込まない。

## デバイスウィンドウのバックグラウンド

Backgroundコマンドを使ってデバイスウィンドウのバックグラウンドを選びます。QSIに付属のデータから選択したり、あるいはBMPをサポートしているウィンドウズ用の標準グラフィックペイントソフト等を使って独自のデータを作成し、バックグラウンドに用いることができます。

1. OptionメニューでBackground (Ctrl+B) を選びます。

次のダイアログボックスが現れます。



2. Backgroundをクリックします。  
選んだイメージのプレビューが現れます。
3. OKをクリックします。

Backgroundダイアログボックスの他のオプションは：

**No Background**：バックグラウンドを表示しません。

**Picture Size**

**Resizable**：デバイスウィンドウの大きさに絵を合せます。

**Fix to original**：元絵固有の大きさに固定されます。



## 第3章 ウインドウ

本章ではWindowメニューコマンドと関連ウインドウについて説明します。

### デバイス/シーン

WindowメニューのDeviceコマンドとSceneコマンドを使って、デバイスウインドウ、シーンウインドウを選びます。一度に一つのウインドウだけがアクティブになり、現在選ばれているウインドウメニューの名前の前にチェックの表示が現れます。

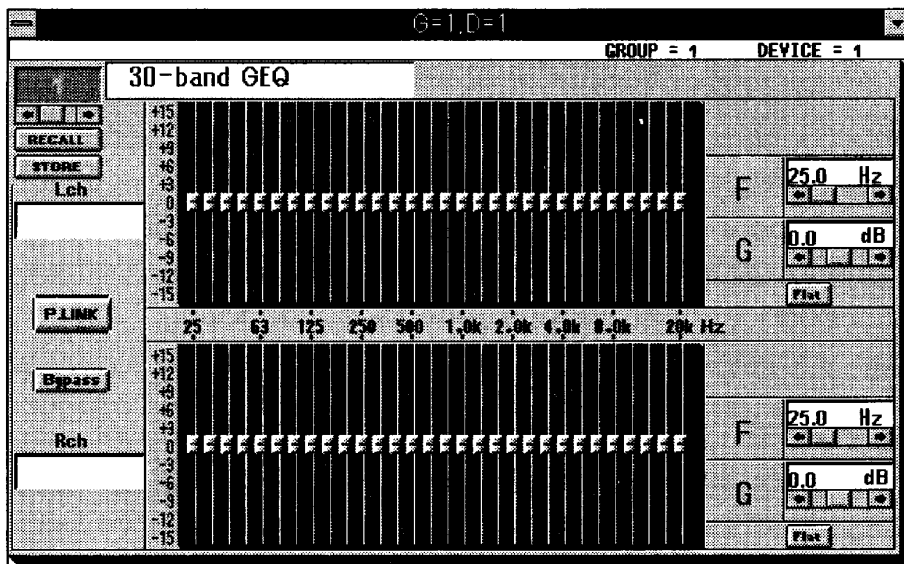
### グラフィックイコライザー

グラフィックイコライザーのウインドウから、グラフィックEQ機能にアクセスします。

**注意:** イコライザー機能についての詳しい説明は、各デジタルイコライザーの取扱説明書をお読みください。

1. グラフィックイコライザーウインドウを選ぶには、デバイスウインドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてください。

グラフィックイコライザーのウインドウが表示されます。



**注意:** デバイスがパラメトリックイコライザーモードの場合は、パラメトリックイコライザーウインドウが現れます。

グラフィックイコライザーウインドウは複数、同時にオープンすることができます。

グラフィックイコライザーウインドウをクローズするには、コントロールメニューボックスをダブルクリックしてください。

デバイスの名前が、タイトルバーに表示されます。グループナンバー、デバイスナンバーはタイトルバーのすぐ下に表示されます。

**注意:** Config OptionのProtectがOnになっているときはイコライザーウインドウを開くことはできません。

2. スライダーはドラッグして調整します。(次頁のEQオペレーティングモードもお読みください)

スライダーボタンを選ぶと、その色が変わって、アクティブなスライダーとなったことを示します。

選択しているプログラムナンバーは画面左上の隅に表示され、プログラム名がその右に表示されています。プログラムの名前は、最高16文字まで入力できます。

**注意:** プログラム名のサイズはお使いのシステムフォントの大きさに依存します。一部表示されていない場合にはシステムフォントの大きさを調整してください。

別のプログラムを選択するには、プログラムナンバーの下の矢印をクリックします。左の矢印は数字が小さく、右の矢印は数字が大きくなります。矢印のボタンを押し続けると、プログラムナンバーが連続して変化します。異なるプログラムナンバーを選ぶと、そのナンバーが点滅します。これは、選んだプログラムナンバーと、保存したばかりのプログラムまたは呼び出したばかりの最新のプログラムとが一致しないことを表しています。ここでもう一度最新のプログラムナンバーを選ぶ、もしくは他の部分をクリックすると、点滅が止まります。

プログラムナンバーをいったん選んだら、RECALLをクリックしてこれ呼び出すか、STOREで保存してください。警告ボックスが出て確認してきます。OKをクリックして続行するか、Cancelを選んでください。

**注意:** デバイスのソフトウェアプロテクト機能がオンになっているときは、プログラムを保存することはできません。

プログラムの呼び出しが完了すると、プログラムナンバーの点滅が止まり、すでに保存されていれば、プログラムとチャンネル名が現れます。

グラフィックイコライザーの他のパラメーターには次のものがあります。

**F:** 矢印をクリックするか、スクロールボックスをドラッグして、周波数帯を選びます。

**G:** 矢印をクリックするか、スクロールボックスをドラッグして、ゲインを設定します。

**Flat:** クリックして、イコライザーのレスポンスをフラットにします。

**Lch:** 左チャンネルのネームを8文字までの長さで入力します。

**Rch:** 右チャンネルのネームを8文字までの長さで入力します。

**P.LINK:** クリックしてパラメーターリンク機能をオン/オフします。

**Bypass:** クリックして、バイパス機能をオン/オフします。

**12dB/6dB:** クリックしてデバイスのゲインを6dBまたは12dBに設定します。(YDG2030でのみ有効)

## EQオペレーティングモード

EQスライダーにはNormal、Drawing、Sweep、そしてTriangleの4つのモードがあります。

### 1. Modeメニューでモードを選びます。

現在選ばれているモードの名前の前にチェックの表示が現れます。

**Normal:** モードでは、スライダーをそれぞれ別々にドラッグできます。

**Drawing:** このモードでは、スライダーの部分でマウスをドラッグさせて実際にEQ曲線を描くことができます。マウスの軌道に沿って、スライダーのつまみが並びます。

**Sweep:** このモードでは、周波数帯を簡単に掃波することができます。フィードバックを起こしたりするような問題のある周波数帯を見つけるときに役立ちます。マウスをスライダー上でドラッグすると、スライダーが次々と上下し、次のスライダーを選ぶと元の位置に戻ります。

**Triangle:** このモードでは、3つの点を指定することによって、EQ曲線を描きます。QS1はこの3点を直線で結びます。

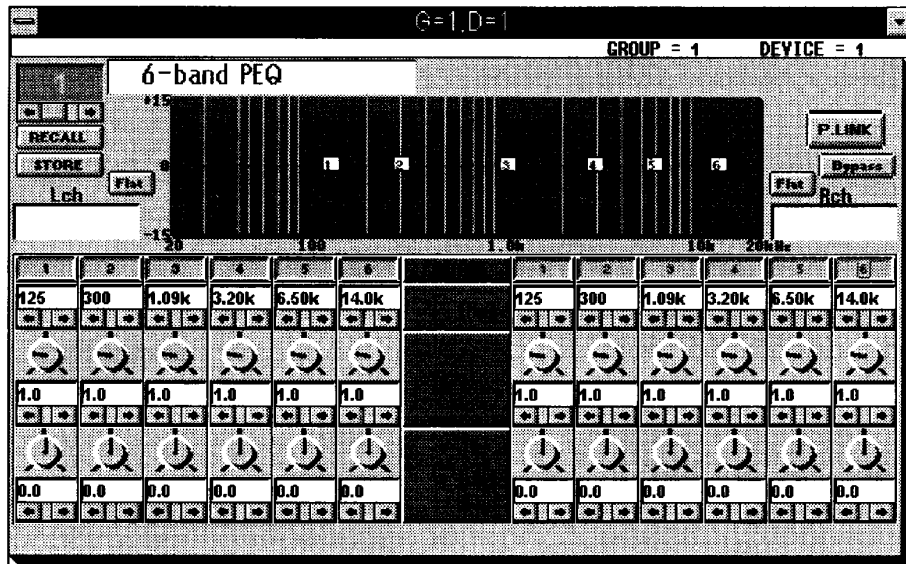
## パラメトリックイコライザー

パラメトリックイコライザーのウィンドウからは、パラメトリックEQ機能にアクセスします。

**注意:** イコライザー機能の詳細は、使用機器の取扱説明書をお読みください。

1. パラメトリックイコライザーウィンドウを選ぶには、デバイスウィンドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてください。

パラメトリックイコライザーのウィンドウが表示されます。



**注意:** デバイスがグラフィックイコライザーモードの場合は、グラフィックイコライザーウィンドウが現れます。

パラメトリックイコライザーウィンドウはいくつでも同時にオープンすることができます。

パラメトリックイコライザーウィンドウをクローズするには、コントロールメニューボックスをダブルクリックしてください。

デバイスの名前が、タイトルバーに表示されます。グループナンバー、デバイスナンバーはタイトルバーのすぐ下に表示されます。

選択しているプログラムナンバーは画面左上の隅に表示され、プログラム名がその右に表示されています。プログラムの名前は、16文字まで入力できます。

別のプログラムを選択するには、プログラムナンバーの下の矢印をクリックします。左の矢印は数字が小さく、右の矢印は数字が大きくなります。矢印のボタンを押し続けると、プログラムナンバーが連続して変化します。別のプログラムナンバーを選ぶと、そのナンバーが点滅します。これは、選んだプログラムナンバーと、保存したばかりのプログラムまたは呼び出したばかりの最新のプログラムとが一致しないことを表しています。ここでもう一度最新のプログラムナンバーを選ぶ、もしくは他の部分をクリックすると、点滅が止まります。

プログラムナンバーをいったん選んだら、RECALLをクリックしてこれを呼び出すか、STOREで保存してください。警告ボックスが出て確認してきます。OKをクリックして続行するか、Cancelを選んでください。

**注意:** デバイスのソフトウェアプロテクト機能がオンになっているときは、プログラムを保存することはできません。

プログラムの呼び出しが完了するまでには、1秒ほどかかります。完了すると、プログラムナンバーの点滅が止まり、すでに保存されていれば、プログラムとチャンネル名が現れます。

パラメトリックイコライザーの他のパラメーターには次のものがあります。

**F**：矢印をクリックして、中心周波数を選びます。周波数特性グラフの数字ボックスを左右にドラッグして設定することもできます。

**Q**：矢印をクリックして、Qを設定します。ロータリーQコントロールはQの調整とともに動きます。

**G**：矢印をクリックして、ゲインを設定します。周波数特性グラフの数字ボックスを上下にドラッグしても設定できます。ロータリーコントロールはゲインの調整とともに動きます。

**Flat**：クリックして、イコライザーのレスポンスをフラットにします。

**Lch**：左チャンネルのネームを8文字までの長さで入力します。

**Rch**：右チャンネルのネームを8文字までの長さで入力します。

**P.LINK**：クリックしてパラメーターリンク機能をオン/オフします。

**注意**: YDP2006ではモノモードに設定されているときはParam Link機能は動きません。

**Bypass**：クリックして、バイパス機能をオン/オフします。

**12dB/6dB**：クリックしてデバイスのゲインを6dBまたは12dBに設定します。(YDP2006でのみ有効)

**STEREO/MONO**：ボタンをクリックして、デバイスをステレオまたはモノパラメトリックモードに設定します。(YDP2006でのみ有効)

## Eq. Com

コモンウィンドウからは、コモン機能の設定ができます。

**注意:** コモン機能についての詳細は、各デジタルイコライザーの取扱説明書をお読みください。

1. コモンウィンドウを開くには、グラフィックウィンドウ、またはパラメトリックウィンドウを選択し、ウィンドウメニューでEq. Comを選びます (Ctrl+M)。

DEQ5, DEQ5Eのウィンドウ

Equalizer Common	
Device Name = <b>G=1,D=1</b>	PGM = <b>30-band GEQ Mem No = 1</b>
Hum Cancel <input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off	
Hum Cancel <input checked="" type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual	Hum Cancel <input checked="" type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual
Frequency <b>60</b> Threshold <b>-75</b>	Frequency <b>60</b> Threshold <b>-75</b>
Polarity <input checked="" type="radio"/> Normal <input type="radio"/> Reverse	Polarity <input checked="" type="radio"/> Normal <input type="radio"/> Reverse
Delay Unit <input checked="" type="radio"/> Milliseconds <input type="radio"/> Meters/Millimeters <input type="radio"/> Feet/Inches	
Delay <b>5.333ms</b>	Delay <b>5.333ms</b>
Att. In <b>0</b> dB	Att. In <b>0</b> dB
Out <b>0</b> dB	Out <b>0</b> dB

YDG2030, YDP2006のウィンドウ

Equalizer Common	
Device Name = <b>G=1,D=2</b>	PGM = <b>6-band PEQ Mem No = 1</b>
Hum Cancel <input type="radio"/> On <input type="radio"/> Off	
Hum Cancel <input type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual	Hum Cancel <input type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual
Frequency <input type="text"/> Threshold <input type="text"/>	Frequency <input type="text"/> Threshold <input type="text"/>
Delay <input type="radio"/> Off <input checked="" type="radio"/> On	Delay <input type="radio"/> Off <input checked="" type="radio"/> On
Delay Unit <input checked="" type="radio"/> Milliseconds <input type="radio"/> Meters/Millimeters <input type="radio"/> Feet/Inches	
Delay <b>0.000ms</b>	Delay <b>0.000ms</b>
Att. In <b>0</b> dB	Att. In <b>0</b> dB
Out <input type="text"/> dB	Out <input type="text"/> dB

左チャンネル機能が左側、右チャンネル機能が右側に現れます。

コモンウィンドウを閉じるには、コントロールメニューボックスをダブルクリックします。

YDP2006のモノモードのときは左側の設定のみ有効となります。

コモンウィンドウには次の機能があります。

**Hum Cancel On/Off** : ハムキャンセル機能をオン/オフします。

**Hum Cancel** : ハムキャンセル機能をAutoかManualに設定するとき、および周波数とスレシヨルド値を設定するときに使用します。上下の矢印をクリックして設定します。

**Polarity** : 出力のポラリティをNormalかReverseに設定します。

**Delay Unit** : デイレイ単位の設定に使用します。デイレイタイムを調整するまでは、デバイスは新しい設定値を使用しません。

**Delay** : デイレイタイムの設定に使用します。スライダーをドラッグするか、上下の矢印をクリックして設定します。

**Att.** : 入出力のアッテネータレベルを設定します。スライダーをドラッグするか、上下の矢印をクリックして設定します。テキストフィールドの“\*”は∞無限大を意味します。

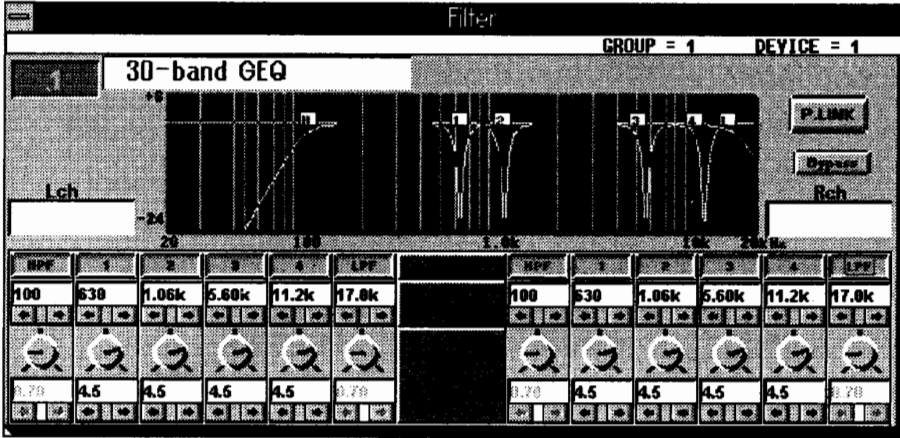
**注意:** Hum CancelとPolarityのパラメーターはYDG2030とYDP2006にはありません。

## フィルター

フィルターウィンドウから、フィルターコントロールにアクセスします。

1. コモンウィンドウを開くには、グラフィックウィンドウ、またはパラメトリックウィンドウを選択し、ウィンドウメニューでFilterを選びます (Ctrl+F)。

フィルターウィンドウが表示されます。



フィルターウィンドウを閉めるには、コントロールメニューボックスをダブルクリックします。

Lch：左チャンネル名を表示します。

Rch：右チャンネル名を表示します。

P.LINK：クリックして、パラメーターリンク機能をオン/オフします。

Bypass：バイパス機能をオン/オフします。

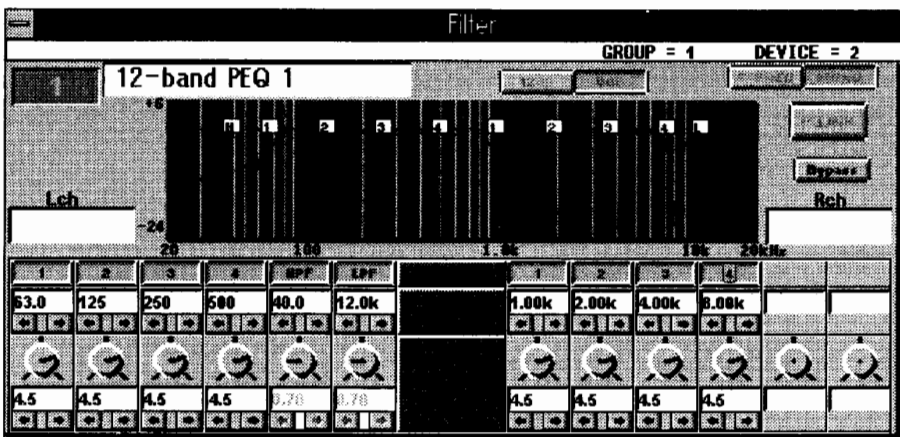
ON/OFF：オン/オフボタンをクリックして、個々のフィルターをオン/オフします。

F (Hz)：矢印をクリックして、フィルターの周波数を設定します。フィルター周波数は、フィルターの周波数特性グラフの数字ボックスをドラッグして設定することもできます。

Q：矢印をクリックして、フィルターQを設定します。

注意：HPFとLPFにはQパラメーターはありません。

YDP2006のモノモードでは下の表示のように順番が変わります。

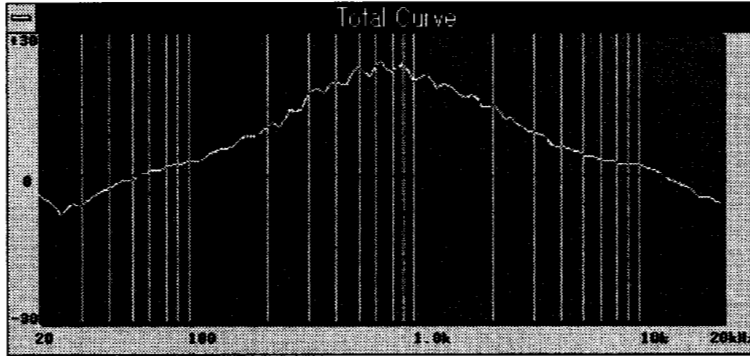


## 周波数曲線

周波数曲線ウィンドウは、デバイスの周波数特性を表示します。

1. 周波数曲線ウィンドウを開くには、グラフィックウィンドウ、またはパラメトリックウィンドウを選択し、ウィンドウメニューでCurveを選びます (Ctrl+A)。

周波数曲線ウィンドウが表示されます。



複数の周波数曲線ウィンドウを同時にオープンすることができます。

周波数曲線はEQ調整するとリアルタイムでアップデートされます。

周波数曲線ウィンドウを閉じるには、コントロールメニューボックスをダブルクリックします。



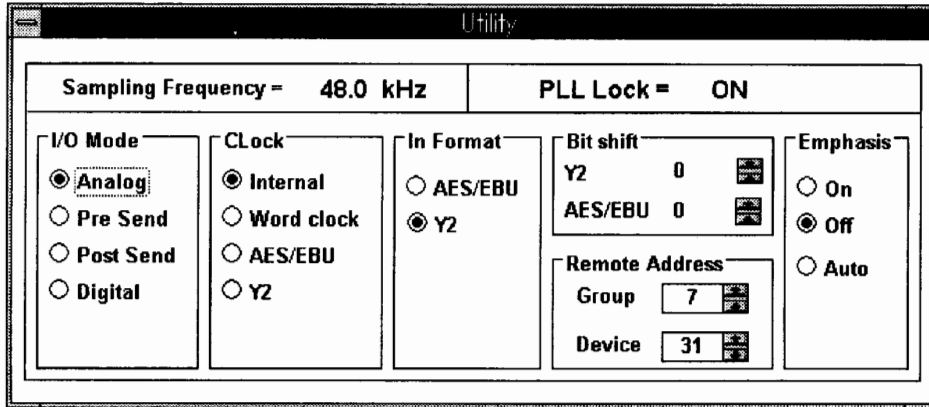
## ユーティリティ

ユーティリティウィンドウから、ユーティリティ機能を設定できます。

**注意:** ユーティリティ機能についての詳細は、デジタルイコライザーの取扱説明書をお読みください。

1. ユーティリティウィンドウを開くには、グラフィックウィンドウ、またはパラメトリックウィンドウを選択し、ウィンドウメニューでUtilityを選びます (Ctrl+U)。

ユーティリティウィンドウが表示されます。



ユーティリティウィンドウを閉めるには、コントロールメニューボックスをダブルクリックします。  
ユーティリティウィンドウには次の機能があります。

**Sampling Frequency :** デバイスのサンプリング周波数を表示します。

**PLL Lock :** PLLロックがオンになっているかオフになっているかを表示します。

**I/O Mode :** I/Oモードを設定するために使用します。

**Clock :** デバイスのクロックソースを設定するために使用します。

**In Format :** デバイスのデジタル入力フォーマットを設定するために使用します。

**Bit Shift :** デバイスのデジタル入力ビットシフトを設定するために使用します。上下の矢印をクリックして、ビットシフトを設定します。

**注意:** ビットシフトはDEQ5Eでは無視されます。

**Emphasis :** エンファシス機能をオン/オフ、またはAutoに設定するために使用します。

**Remote Address :** デバイスのリモートアドレス (グループ番号、デバイス番号) を設定するために使用します。

YDG2030, YDP2006のユーティリティウィンドウでは使えないパラメーターは灰色で表示されます。

## タイムコードイベント

タイムコードイベントウィンドウでは、プログラムリコールイベントを入力することができます。

**注意:** タイムコードイベント機能についての詳細は、デバイスの取扱説明書をお読みください。

1. タイムコードでイベントウィンドウを開くには、グラフィックウィンドウ、またはパラメトリックウィンドウを選択し、ウィンドウメニューでTime Codeを選びます (Ctrl+T)。

タイムコードイベントウィンドウが表示されます。

No	H	M	S	F	Pgm
1	0	1	0	0	2
2	0	1	10	0	3
3	0	1	50	0	5
4	0	2	10	0	8
5	**	**	**	**	NOP

**注意:** タイムコードイベントが使えるのはDEQ5だけです。

異なる番号のイベントリストを見たいときは、スクロールバーを使用してください。

2. タイムコードイベント機能をオン/オフするには、EventのOn、Offボタンを使います。
3. 上下矢印を使ってタイムコードタイプ (30、30D、25、24) を設定します。
4. H、M、SとFに数字を設定し、Pgmボックスにプログラムナンバーを入力します (NOPはno program (プログラムなし) を表しています)。

マウスでH、M、SとFを選びます。Tabキーを押すとマウスのポインターは次へ進み、Shift+Tabキーを押すとマウスのポインターは戻ります。

5. タイムコードイベントウィンドウを閉じるにはコントロールメニューボックスをダブルクリックします。
6. タイムコードの設定をデバイスへ送るにはOKをクリックします。そうでないときはCancelをクリックします。

**注意:** ユーティリティモードのときは、デバイスはイベントリストを受信しません。

## 第4章 プロジェクト

本章では、プロジェクトとは何か、またプロジェクトの使い方について説明します。

### プロジェクトとは?

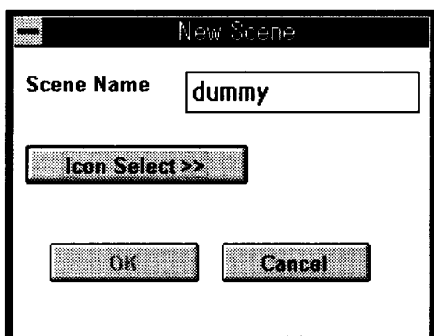
プロジェクトは複数のイコライザーを使ったシステムで、イコライザーデータを管理する理想的な手段です。プロジェクトには、すべてのイコライザー機器のデータが入ります。また、最高100個までのシーンを使って、複数のイコライザー上にプログラムを同時に呼び出すこともできます。各シーンには適当なアイコンを割り当て、このアイコンをダブルクリックすることによって、シーンを切り換えます。またデバイスウィンドウでのデバイスアイコンの位置はプロジェクトに記憶されます。

### 新しいプロジェクトの作成

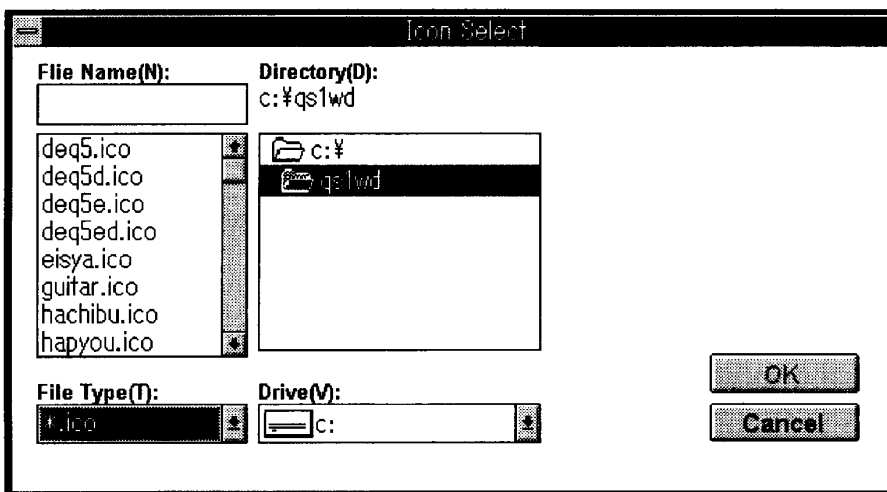
1. 新しいプロジェクトを作成するには、ウィンドウメニューでSceneを選びます。  
空のシーンウィンドウが現れます。

### プロジェクトへのシーンの追加

1. シーンをプロジェクトに追加するには、EditメニューでNew Sceneを選びます。  
New Sceneダイアログボックスが現れます。



2. Icon Selectをクリックします。  
Icon Selectダイアログボックスが現れます。

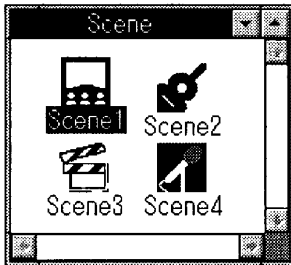


3. 新しいシーンのアイコンを選びます。
4. OKをクリックします。

5. シーンの名前をNew Sceneダイアログボックスに入力します(最大16文字)。
6. OKをクリックします。

新しいシーンアイコンがシーンウインドウに現れます。

次の画面はいくつかのシーンアイコンを示しています。



### カスタムシーンアイコン

ICOフォーマットをサポートするペイントアプリケーションを使うと自分自身で独自のシーンアイコンを作ることができます。またIcon Select ダイアログボックスではFile Typeとして.BMPフォーマットを選択することもできます。

### シーンのエディット

1. シーンをエディットするには、シーンウインドウで選びます。
2. EditメニューでSceneを選びます。

次のエディットシーンウインドウが現れます。

↓ シーンの名前

Scene1					
No	Model	Group	Device	Device Name	Pgm No
1	DEQ5	1	1	G=1,D=1	1
2	YDP	1	2	G=1,D=2	1

このウインドウは、そのシーンに含まれるイコライザー全機器のモデル名、グループ名、デバイス名を表示しています。

3. 1~40のプログラムナンバーをPgm Noボックスに入力します。

マウスでPgmNoボックスを選びます。またはTabキーを押しカーソルを進めるかShift+Tabキーでカーソルを戻しても選べます。

4. 終了したらコントロールメニューボックスをダブルクリックします。

**注意:** シーン作成後に機器構成に変化があっても、すでに作成されたシーンデータには反映されません。再び新しいシーンを作成しなおしてください。

## シーンの切り替えの実行

シーンの切り替えは、次の2通りがあります。

1. シーンアイコンをダブルクリックする。または、シーンアイコンを選んでProjectメニューでTransmit Sceneを選択する。

警告ボックスが現れます。

2. OKをクリックしてシーンの切り替えを実行する。しないときはCancelをクリックします。

**注意:** 各デバイスのリモートアドレスには絶対にブロードキャストを設定しないでください。ブロードキャストを設定した場合、正確なシーン切り替えの実行ができないことがあります。

**注意:** シーン切り替えを実行すると、プログラムチェンジの送信とともにカレントデータの受信をするため、機器数が増えると切り替え時間が長くなります。

設定が終了したら、Config OptionのProtectをOnにすれば比較的早く切り替え処理が終了します。

## シーンの削除

1. シーンを削除するには、シーンアイコンをシーンウィンドウで選びます。

2. EditメニューでDelete Sceneを選びます。

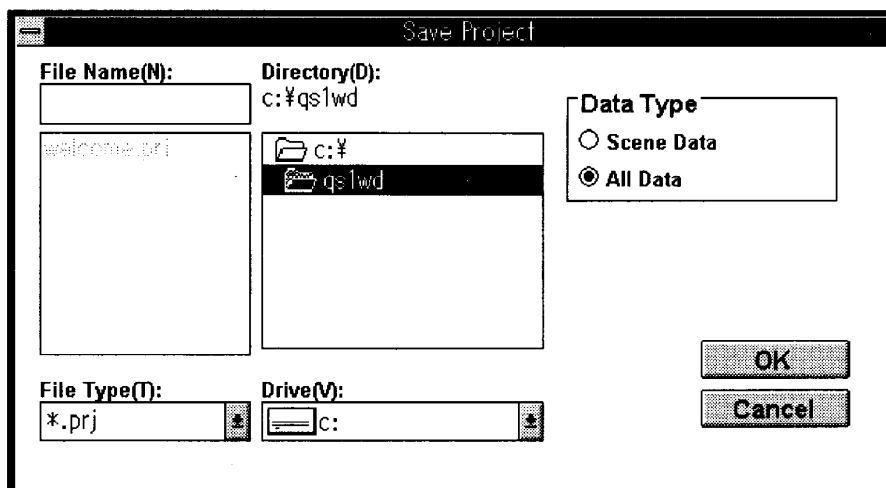
警告ボックスが現れます。

3. OKをクリックしてシーンを削除します。しないときはCancelをクリックします。

## プロジェクトのセーブ

1. プロジェクトをセーブするには、ProjectメニューでSave Project (F4) を選びます。

ダイアログボックスが現れます。



2. File Nameのテキストフィールドをクリックします。

3. ファイルネームを入力します(最大8文字)。

拡張子prjが自動的につきます。

4. Data Typeを選びます。

Scene Data : シーンデータのみセーブします。

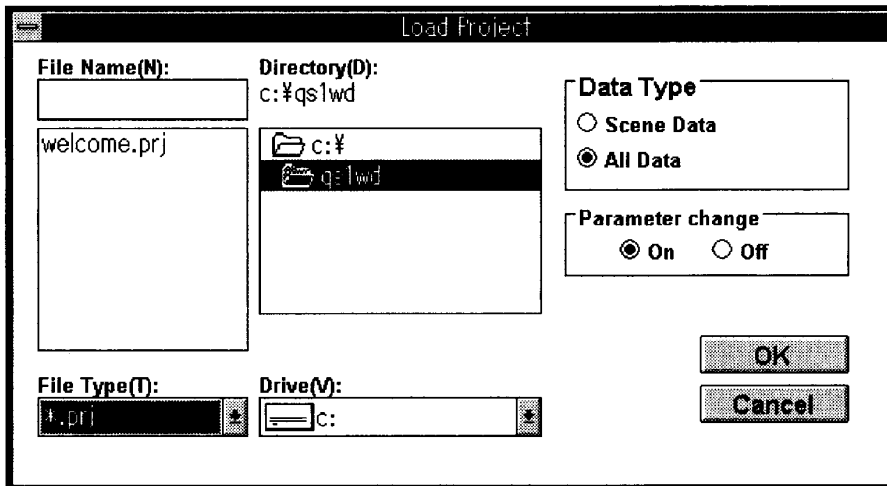
All Data : 全データをセーブします。

5. OKをクリックします。

**注意:** Master SelectがDeviceのとき、シーンデータが作成されていない場合プロジェクトのセーブはできません。

## プロジェクトのロード

1. プロジェクトをロードするには、ProjectメニューのLoad Project (F3) を選びます。  
ダイアログボックスが現れます。



2. プロジェクトを選びます。
3. Data Typeを選びます。  
Scene Data : シーンデータのみロードします。  
All Data : 全データ (デバイスとシーン) をロードします。
4. パラメーターチェンジを設定します。  
On : Onに設定した場合は、プロジェクトデータをコンピューター内部にロードすると同時にそのデータすべてを周辺に接続されているイコライザーに転送します。  
Off : コンピューター内部のみにデータをロードします。
5. OKをクリックします。  
注意: 1度に開けるプロジェクトは1つです。  
プロジェクトのセーブ、ロード操作ではファイルの拡張子がMaster SelectかHostのときは\*.prj Deviceのときは\*.scnになります。

## 第5章 バルクデータ

本章では、デバイスのバルクデータの送受信の仕方を説明します。

### バルクデータの受信

Bulk Inコマンドで、デバイスのバルクダンプデータリクエストの受信を行います。

1. 入力したいデバイスのアイコンを選びます。
2. FileメニューでBulk In (Ctrl+I)を選びます。

次のダイアログボックスが現れます。

3. Group、Device、Device Nameボックスの横にある上下の矢印をクリックして、ソースデバイスを選びます。

チェックボックスをクリックすると、カレントデバイスが自動的に選択されます。

カレントデバイス以外のデバイスからデータをコピーするときはバルクダンプ送信機能を使い、一度ホストに送られたデータを送信します。そうしないと、ホストデータとデバイスデータは異なってしまいます。

4. Data Typeを選択します。

次のデータタイプから選んでください。

**Memory**：個々のメモリー（プログラム）。上下の矢印をクリックして、メモリー1-40の一つを選んでください。

**System**：システムデータ

**Program Change Table**：プログラムチェンジテーブルデータ

**Remote Assign**：リモートアサインデータ

**Time Code Event**：タイムコードイベントリストデータ

**All Bulk Dump Request**：上記のデータすべて（初期設定）

5. OKをクリックして受信するか、Cancelします。

データ受信には数秒かかります。

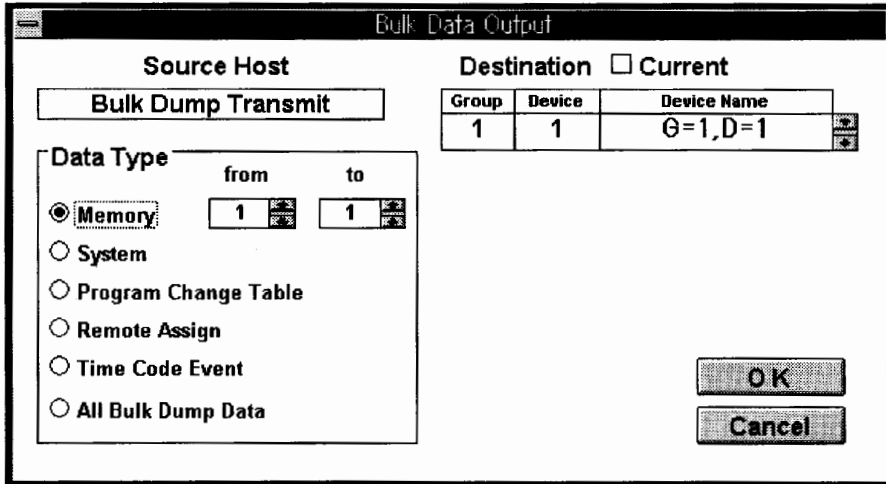
**注意**: デスティネーションデバイスがアクティブの場合バルク入力したデータと実際接続されている機器とのデータは一致しなくなります。機器間のデータ転送は次の頁のデータバルクの送信をお使いください。バルクデータの受信はデスティネーションデバイスがダミーデバイスのとき操作してください。

## バルクデータの送信

Bulk Dump Transmitコマンドを使って、バルクダンプデータをデバイスに送信します。

1. FileメニューでBulk Out (Ctrl+O) を選びます。

次のダイアログボックスが現れます。



2. Group、Device、Device Nameボックスの横にある上下の矢印をクリックして、デスティネーションデバイスを選びます。

チェックボックスをクリックすると、カレントデバイスが自動的に選択されます。

3. Data Typeを選択します。

次のデータタイプから選んでください。

**Memory**：個々のメモリー(プログラム)。上下の矢印をクリックして、メモリー1-40の一つを選んでください。

**System**：システムデータ

**Program Change Table**：プログラムチェンジテーブルデータ

**Remote Assign**：リモートアサインデータ

**Time Code Event**：タイムコードイベントリストデータ

**All Bulk Dump**：上記のデータすべて(初期設定)

4. OKをクリックして送信するか、Cancelします。

データ送信には数秒かかります。



## マスターセレクト

ここではマスターセレクトについて詳しく説明します。通常の操作を行っている間は、マスター機器のデータは破壊されません。初期設定では、マスターセレクトはデバイスに設定されています。

### マスターがホストのとき

- ホストデータがメインデータとなります。
- プロジェクトをロードすると、ホストデータとデバイスデータがアップデートされます。

### マスターがデバイスのとき

- デバイスデータがメインデータとなります。
- ホスト側で行ったパラメーターの変更はすべてデバイスデータに反映されます。

Master SelectをDeviceからHostに変更すると、ホストはアクティブとなっている機器全てからバルクデータを受信します。

## 基本操作

1. ホストコンピューターからシステムをコントロールし、デジタルイコライザー全機器のデータをアップデートしてホスト側のデータと一致させる場合。

複数の機器を使用する場合、全機器の電源を入れ、各機器のローカルアドレス(グループ、デバイス)を設定します。次に、これをY-485を使って接続します。

ホストコンピューターの電源を入れ、QSIをスタートさせます。QSIはネットワークの中でアクティブとなっている機器を認識し、これをデバイスウィンドウに追加します。アクティブとなっている機器が全て追加されたこと、また各ローカルアドレスが正しいことを確認してください。

ConfigのMaster SelectをHostに設定します。

アクティブな機器全てからホストコンピューターにデータが送信されます。ホスト側で行ったパラメーターの調整は、すべてアクティブ機器に反映されます。

プロジェクトファイルをロードすると、ロードプロジェクトウィンドウのParameter changeがOnに設定されているときはホストデータとデバイスデータがアップデートされます。

2. デバイスデータをメインデータとして使用する場合。

機器内のデータ自体は変更しないで、現在のデータを微調整したいとき:

Config OptionのMaster SelectパラメーターをDeviceに設定します。デバイスデータは変更されません。変更内容が、各デバイスに反映されます。

プロジェクトファイルをオープンすると、ホストデータだけがアップデートされ、デバイスにはデータは送信されません。

ホスト側でプログラムナンバーを変更すると、データが各デバイスから受信されます。ホストコンピューターのデータは常に一時的なバッファとしての役割を果たします。

### デフォルトプロジェクトエラーウインドウ

デバイスデータ(カレントデバイス情報)とファイルデータ(前回終了時のデバイス情報)が同じでないときQS1を立ち上げるとデフォルトプロジェクトエラーウインドウが現れます。Master SelectがHostでイコライザーが接続されているときのみ現れます。またデバイスが追加されただけの場合は現れません。

下のようなデフォルトプロジェクトエラーウインドウが現れます。

Default Project Error									
No	Model	G	D	No	Model	G	D	Device Name	
1	DEQ5	1	1	1	DEQ5	1	1	G=1,D=1	
				2	DEQ5	1	2	G=1,G=2	
DEVICE DATA					FILE DATA				
<input type="button" value="OK"/>									

デフォルトプロジェクトエラーウインドウが表示されたら

1. 前回QS1を使ったときアクティブだったデバイスがまだ接続されたままか、また、間違っただモデルにアドレスがアサインされていないかチェックします。
2. ファイルデータ側のデバイスのアドレスを修正します。デバイス名も同時に変更できます。
3. OKをクリックします。
4. エラーメッセージが現れたらOKをクリックしてもう1度アドレスを修正します。
5. アドレスを修正したらイコライザーのデータを受信できます。デバイスデータとファイルデータが同じアドレスにあるときは、ファイルデータが有効です。

**注意:** デフォルトプロジェクトエラーで値を設定しても次の操作が継続できなくなった場合にはウインドウズのディレクトリのQS1-WD.INIファイルの中の[Master Select]のMaster=HostをMaster=Deviceに変更し、再度立ち上げてメニューのConfigで再びMaster SelectをHostに設定してお使いください。

## PC98シリーズをお使いの方への注意

PC98などをお使いの場合はCOMポートの設定がCOM1でなければRS232Cのシリアルポートを使うことができません。

A: ¥WindowsにあるQS1WD.INIファイルをメモ帳などを使って開いて、以下のように修正して再び立ち上げてください。

1行目にある‘COM=’の項をcom2 → com1に変更して

[COM]

; Example COM = COM1 or COM = COM2

COM = COM2

→ COM = COM1

再び、上書き保存してください。

またQS1WD.INIファイルを壊してしまった場合には、再びインストールし直して同様の修正を加えてください。

以下は、出荷時のQS1WD.INIファイルの内容です。

[COM]

; Example COM = COM1 or COM = COM2

COM = COM2

[Baud Rate]

; Example RATE = 9600 or RATE = 38400

RATE = 9600

[Ver.]

VER = 1.00

[Master Select]

; Example MASTER = HOST or MASTER = DEVICE

MASTER = DEVICE

[Auto Polling]

; Example AUTOPOLLING = ON or AUTOPOLLING = OFF

AUTOPOLLING = OFF

[Confirm]

; Example CONFIRM = ON or CONFIRM = OFF

CONFIRM = OFF

[Protect]

; Example PROTECT = ON or PROTECT = OFF

PROTECT = OFF

[Default Directory]

DIR = A: ¥QS1WD ¥

[Default File]

FILE = WELCOME. PRJ

[Device Icons]

DEQ5 = DEQ5. ICO

DEQ5E = DEQ5E. ICO

YDG = YDG. ICO

YDP = YDP. ICO

UNK = UNK. ICO

DEQ5D = DEQ5D. ICO

DEQ5ED = DEQ5ED. ICO

YDGD = YDGD. ICO

YDPD = YDPD. ICO

UNKD = UNK. ICO

[Reserve]

## トラブルシューティング

もしQS1が思いどおりに動かないときは症状をチェックし次のように対策してください。

症 状	対 策	
QS1を立ち上げたがデバイスアイコンが表示されず何もコントロールできない	QS1を立ち上げたときIFU485のBusyインジケータが点灯しない	デジタルイコライザー、コンピューター、IFU485の順に電源を入れてからQS1を立ち上げてください。
		コンフィグ (Config) でQS1、IFU485のボーレートを9600か38400に設定してください。
	QS1を立ち上げたときIFU485のBusyインジケータが点灯する	コンフィグ (Config) でQS1とIFU485のボーレートが一致しているか確かめてください。
		IFU485の設定をチェックしてください。 Powerスイッチ: ON    TERMINATEスイッチ: ON SELECTスイッチ: RS-232C 内部ボーレートスイッチの確認 (出荷時は9600)
		デジタルイコライザーの設定をチェックしてください。 Comm I/O; ALL ローカルアドバース、ボーレート 当社の相談窓口へご相談ください。
QS1の操作が時々止まる	コンフィグ (Config) でAuto Pollingチェックボックスをオフにしてください。オンの状態ですとQS1は定期的に接続されているデジタルイコライザーのステータスをチェックしていきますのでQS1の操作が中断されてしまいます。	
イコライザーアイコンがアクティブにならない	コンフィグ (Config) のAuto PollingをONにしてください。(11ページ参照)	
メニューバーのコマンドが無効なときがある	Protect=ONのときやMaster SelectがDeviceに設定されているとデジタルイコライザーによってはいくつかのコマンドは使えません。コンファメーションダイアログボックスメッセージも異なります。選ばれているデバイスやどのウィンドウがアクティブになっているかによって違いがあります。ウィンドウメニューの項目等は親のデバイスウィンドウが開いていないと開くことができません。	
ショートカットキーが動かない	QS1-WDタイトルバーが反転表示になっているか確認してください。なっていないときはクリックしてアクティブにします。	
"Can't create..."のメッセージが現れファイルを作れない	QS1をハードディスクから立ち上げているときはディスクに新しいファイルのためのスペースがあるか確認してください。	
常駐型ソフトが動かない。	常駐型ソフトのMouse ManagerのExtra PointsのLocate, Magnifyの機能等はQS1-WDを起動していると使えなくなります。他の常駐型ソフトを使用しても使えるものと使えないものがあります。	

## 用語集

**アクティブウインドウ**—コンピューターのデスクトップ上で一番手前に開いているウインドウ。一般的には、現在アクティブとなっているアプリケーションのウインドウ。

**アクティブな機器**—QS1が検知した作動中のデジタルイコライザー

**グループID**—デバイスが属するグループを表すデバイスアドレスの一部。

**コントロールメニューボックス**—ウインドウ自体の操作で使用する。ウインドウの左上隅に位置する小さいボタン。

**最大表示ボタン**—ウインドウの大きさを画面いっぱいにするときに使用する。

**シーン**—プログラムチェンジを管理する便利な方法。プログラムチェンジメッセージは、複数の機器に同時に送信することができる。アイコンをダブルクリックすると、送信が始まる。

**自動ポーリング**—QS1が一定時間ごとに接続機器の状態をチェックする動作。

**ダミーデバイス**—アクティブな機器が接続されていないときにダミーデバイスを使って、QS1をスタートさせ、様々なグラフィックイコライザーウインドウを見たり、シーンデータをチェックすることができる。

**チェックボックス**—ダイアログボックスやウインドウに表示される小さなボックス。選択肢をオン/オフするのに使用する。チェックボックスにX印が入っていると、その選択肢が選ばれていることを表す。

**テキストフィールド**—テキスト入力を受け付けるダイアログボックスやウインドウ上の長方形の箱。

**デバイス**—QS1でコントロールできるデジタルイコライザーを指す一般的な用語。グラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザーなどを指している。

**デバイスアドレス**—ネットワーク上で各デバイスに指定されている、排他的な識別ナンバー。デバイスID、グループIDを参照のこと。

**デバイスファイル**—デバイスデータを保存するQS1ファイル。

**デバイスID**—デバイスがグループ内のどの番号であるかを表す、デバイスアドレスの一部。

**ネットワーク**—通信用に接続された複数の機器。

**プログラム**—デバイスに保存されている一連のイコライザー設定。

**プロジェクト**—数々のイコライザーを含むシステムでデジタルイコライザーデータを管理する便利な方法。

**プロジェクトファイル**—プロジェクトデータを保存するQS1ファイル。

**ボーレート**—データ送信の速度で、1秒間に転送されるビットの数。

**BMP**—ウインドウズの標準の画像フォーマット。

**ICO**—ウインドウズの標準のアイコンデータフォーマット。

**RS-232C**—PC-ATコンピューターおよび互換機で使用するシリアル通信プロトコル。

9ピンまたは25ピンのDSUBタイプの接続。

**RS-422**—コンピューターで使用するバランス式シリアル通信プロトコル。

8ピン、ミニDINタイプの接続。

**Y-485**—ヤマハデジタルイコライザーが使用するシリアル通信プロトコル。

## 付録

## Confirmation Message

## (1) Changing master

## OK to receive all data?

Level : 確認

When : Config画面  
MASTERがHOSTに切り替わったときOK : 接続されているすべてのデバイスのALL  
データをコンピューター側に取り込む。

Cancel : MASTERをデバイスに戻し、何もしない。

## (2) Data are edited

## OK to recall #mm ?

(mm = メモリ番号)

Level : 確認

When : イコライザー画面  
RECALLボタンを押したとき

OK : プログラムを変更し、データを取り込む。

Cancel : 何もしない。

## (3) Operation will modify memory data

## OK to change type?

Level : 確認

When : イコライザー画面 (PEQ $\leftrightarrow$ GEQ)  
メニューによって切り替えたとき (但し  
DEQ5/DEQ5Eのみ)

OK : イコライザータイプを変更する。

Cancel : 何もしない。

## (4) Operation will modify memory data

## OK to store #mm ?

(mm = メモリ番号)

Level : 確認

When : イコライザー画面  
STOREボタンを押したとき

OK : カレントデータをセーブ(ストア)する。

Cancel : 何もしない。

## (5) Operation will modify memory data

## OK to change?

Level : 確認

When : イコライザー画面 (MONO $\leftrightarrow$ STEREO)  
STEREOまたはMONOボタンを押したとき  
(YDP2006のみ)

OK : イコライザーのモードを変更する。

Cancel : 何もしない。

## (6) Operation will modify memory data

## OK to change gain?

Level : 確認

When : イコライザー画面 (6dB $\leftrightarrow$ 12dB)  
6dBまたは12dBボタンを押したとき  
(YDP2006/YDG2030のみ)

OK : イコライザーのモードを変更する。

Cancel : 何もしない。

## (7) Gain will be zero

## OK to set EQ flat?

Level : 確認

When : イコライザー画面  
FLATボタン押したとき

OK : Gainの値を0にする。

Cancel : 何もしない。

## (8) Closing Time Code Event

## Transmit Time Code

Level : 確認

When : タイムコードイベント画面 終了選択時  
(DEQ5のみ)OK : Time Code Event Bulk Dataを送信し、タイム  
コードイベント画面を終了する。Cancel : 何も送信せず、タイムコードイベント画  
面を終了する。

## (9) Changing to protect ON

## Close active windows

Level : 情報

When : Config画面  
protect OFF $\rightarrow$ ONに変更したときOK : イコライザー画面がopenしていればアン  
ロードする。

(キャンセル機能なし)

**(10) Closing Utility****Transmit setup data**

Level : 情報

When : ユーティリティ画面 終了選択時

OK : System Setup Bulk Dataを送信する。

(キャンセル機能なし)

**(11) Closing Eq.Com****Transmit setup data**

Level : 情報

When : イコライザーコモン画面 終了選択時

OK : System Setup Bulk Dataを送信する。

(キャンセル機能なし)

**(12) xxxxxx OK to update file?**

xxxxxxx = ドライブ : ¥イルトリ¥ファイル名

(例) a : ¥qs1wd¥ohishi.prj

Level : 確認

When : セーブプロジェクト選択時

セーブデバイス選択時

OKボタンを押し、かつファイル名が同じ  
ファイルが存在するとき

OK : ファイルに上書きする。

Cancel : ファイルセーブを中止する。

**(13) OK to change scene?**

Level : 確認

When : シーンアイコンのダブルクリック時  
メニューにてTransmit Sceneを選択時

OK : シーンチェンジをおこなう。

Cancel : 何もしない。

**注意 :** (1) ~ (13) までのメッセージは、Config画面  
にてconfirm offのときには、現れません。**ConfirmのON/OFFに関係なく常に表示される  
メッセージ****OK to erase all changes?**

Level : 確認

When : OKボタン押したとき

ロードプロジェクト

ロードデバイス

バルクOUT

バルクIN

OK : そのまま実行

Cancel : 何も実行しない

**Delete 'xxxxx'? (xxxxx=ラベル名称)**

Level : 確認

When : デバイス画面およびシーン画面において  
メニューにてデリートを選択した場合

OK : デリートを実行

Cancel : 何も実行しない

**No devices connected****Do you want to add a dummy device?**

Level : 確認

When : 立ちあげ処理終了後、Deviceが何も見つ  
からなかった場合

OK : ダミーデバイスを作成する。

Cancel : 何も実行しない。

**Changing to protect OFF****Save current data**

Level : 情報

When : Config画面

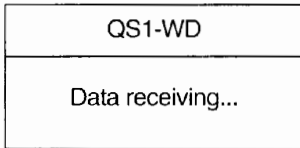
protect ON→OFFに変更したとき

OK : 現在つながっている全てのデバイスの、  
カレントデータをセーブする

(キャンセル機能なし)

## ダイアログBOX表示について

### データ取り込み



Level : 情報

When : Config画面にてMASTERをHOSTに切り替えた場合

Config画面にてprotect ONからOFFに切り替えた場合

立ち上げ時のALL SEARCHのとき

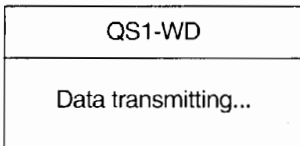
MASTERがDEVICEのとき、初期データを取り込む場合

MASTERがHOSTのとき、見つかったデバイスのIDを入手する場合

MASTERがHOSTのとき、追加デバイスの初期データを取り込む場合

オートポーリング(デバイスチェック)の際、新しく見つかったデバイスのデータを取り込む場合

### コマンド送信時



Level : 情報

When : ロードプロジェクトでParameter changeがonでAll Data選択時に表示する。

シーン画面でシーンアイコンをダブルクリックした場合

シーン画面でメニュー選択でTransmit Sceneを選択した場合

また以下のときに、未送信のデータが存在する場合

イコライザー画面でSTOREボタンを押した

イコライザー画面でRECALLボタンを押した

イコライザー画面でFlatボタンを押した

イコライザー画面でメニューにてグラフィックイコライザーまたはパラメトリックイコライザー画面に切り替えたイコライザー画面で6dBボタンまたは12dBボタンを押した

イコライザー画面でSTEREOボタンまたはMONOボタンを押した

イコライザー画面を終了した(グラフィックイコライザー/パラメトリックイコライザー)

イコライザーコモン画面を終了したシーン画面でシーンアイコンをダブルクリックした

シーン画面でメニュー選択でTransmit Sceneを選択した

プログラム終了時およびエラー終了時

## Warning Messages

### Drive not ready

Level : 警告

When : バックグラウンド(\*.BMP選択)画面  
セーブプロジェクト選択画面  
セーブデバイス選択画面  
ロードプロジェクト選択画面  
ロードデバイス選択画面  
シーンアイコン選択画面

意味 : 認識されないドライブが選択されました。(フロッピーがはいっていません)

### Load/Save file

#### Enter file name

Level : 警告

When : セーブプロジェクト選択画面  
セーブデバイス選択画面  
ロードプロジェクト選択画面  
ロードデバイス選択画面

意味 : ファイル名がセットされていません。

### Illegal group NO. or device NO.

Level : 警告

When : MASTERがHOSTのときの、ファイルアサイン画面  
ロードプロジェクト選択画面時、ファイルアサイン画面

意味 : 変更したグループNO./デバイスNO.が他のデバイスと同じ場合に表示します。



**Illegal device NO.**

Level : 警告

When : MASTERがHOSTのときの、ファイルアサイン画面  
ロードプロジェクト選択画面時、ファイルアサイン画面

意味 : デバイスNO.が間違っています。

**Illegal group NO.**

Level : 警告

When : MASTERがHOSTのときの、立ち上げ時のファイルアサイン画面  
ロードプロジェクト選択画面時、ファイルアサイン画面

意味 : グループNO. が間違っています。

**Delete device****Can not delete active device**

Level : 警告

When : デバイス画面でメニューにてDelete Deviceを選択した場合

意味 : ダミーデバイス以外を削除しようとしたとき。  
(実際につながっているデバイスを削除しようとしたとき)

**Program number must be set from 1 to 40**

Level : 警告

When : シーンエディット画面選択時

意味 : プログラム番号が間違っています。

**Add new device****Duplicate ID**

Level : 警告

When : デバイス画面選択時にメニューでNew Deviceを選択した場合

意味 : 同じグループ/デバイスIDがすでに存在します。

**Add new device****Can not add new device**

Level : 警告

When : デバイス画面選択時にメニューでNew Deviceを選択した場合

意味 : 新しいデバイスが作成できません。

**Model mismatch**

Level : 警告

When : MASTERがHOSTのときの、立ち上げ時のファイルアサイン画面

意味 : ファイルアサイン画面終了時に、ファイル側とデバイス側の同じアドレスに異なるmodelが存在する。

**Receive/Transmit bulk****Model mismatch**

Level : 警告

When : バルクIN選択画面  
バルクOUT選択画面

意味 : modelが異なるので、バルクIN/バルクOUTができません。

**Frame data incorrect**

Level : 警告

When : タイムコードイベント画面

意味 : フレームタイプとフレームデータが異なります。

**Illegal data format 'xxxxxxx'**

(xxxxxxファイル名(ディレクトリ含む))

Level : 警告

When : ビットマップファイル関連取り込み時

意味 : ピクチャー関連ファイルを読み込む際に、形式の異なるファイルを読み込んだ。または、ファイルが存在しない。

## エラーメッセージ

### ファイル関連エラー

#### Can not open file

Level : 重大

意味 : ファイルオープンに失敗した。

#### Can not close file

Level : 重大

意味 : ファイルクローズに失敗した。

#### Can not read file

Level : 重大

意味 : ファイルリードに失敗した。

#### Illegal .INI file data

#### Please check initial file

Level : 重大

意味 : QS1WD.INIのファイルフォーマット異常です。

#### Project file format error

Level : 重大

意味 : プロジェクトファイルのフォーマットが間違っています。(ファイルヘッダー)

#### Scene file format error.

Level : 重大

意味 : シーンファイルのフォーマットが間違っています。(ファイルヘッダー)

#### Device file format error

Level : 重大

意味 : デバイスファイルのフォーマットが間違っています。(ファイルヘッダー)

#### File format error at Device header

Level : 重大

意味 : デバイスデータのヘッダーが間違っています。

#### File format error at Scene header

Level : 重大

意味 : シーンデータのヘッダーが間違っています。

#### File format error at BMP header

Level : 重大

意味 : BMPデータ部分のデータが間違っています。

#### Model error

Level : 重大

意味 : modelが異なります。

#### Can not find file name

Level : 重大

意味 : ファイルネームが間違っている、または、見つかりません。

### 通信関連エラー

#### Can not transmit data

Level : 重大

意味 : COMデバイスに送信データが正常にセットできない。(終了処理に制御移行)

#### Can not open COM

#### Please check initial file

Level : 重大

意味 : 指定したCOMデバイスのオープンに失敗した。(強制終了)

#### RTS signal error

Level : 重大

意味 : RTS信号が間違っています。(終了処理に制御移行)

#### Can not set COM mode

#### Please check initial file

Level : 重大

意味 : COMデバイスに通信データを設定できない。(強制終了)

31ページ「PC98シリーズをお使いの方への注意」を参照ください。

#### Data check sum error

Level : 重大

意味 : 受信したデータのチェックサムが間違っています。(終了処理に制御移行)

#### Receive data read error

Level : 重大

意味 : 受信データが間違っています。(立ち上げ時のエラーは、終了処理)

**Time out to wait receive data**

Level : 重大

意味 : 受信データが送られてきません。(立ち上げ時のエラーは、終了処理)

**メモリ関連エラー****Can not get memory**

Level : 重大

意味 : メモリ取得に失敗した。(強制終了)

**Can not lock memory**

Level : 重大

意味 : メモリをLOCKできません。(強制終了)

**WINDOWS関連エラー****Can not get WINDOWS Directory**

Level : 重大

意味 : WINDOWSディレクトリ検索に失敗した。(終了処理に制御移行)

**Dialog Box set error**

Level : 重大

意味 : ダイアログボックスの作成に失敗した。(終了処理に制御移行)

**You can not use more Timer**

Level : 重大

意味 : タイマーの作成に失敗した。(終了処理に制御移行)

**Can not open more Windows**

Level : 重大

意味 : ウィンドウをこれ以上オープンできません。

**その他のエラー****Illegal value set**

Level : 重大

意味 : 間違ったデータがセットされた。(終了処理に制御移行)

**Model error**

Level : 重大

意味 : シーンチェンジで model が異なった場合に表示する。

**ERROR**

Level : 重大

意味 : 間違ったエラーが発生した。

**QS1-WD is already running**

Level : 重大

意味 : QS1-WDプログラムがすでに起動しているにもかかわらず再度起動をかけたとき(強制終了)

## 索引

## A

Att 18  
Auto Polling 11

## B

Backgroundコマンド 12  
Baud Rate 11  
Bit Shift 21  
Bypassコマンド 10

## C

Clock 21  
Curveコマンド 20

## D

Delay Units 18  
Delete Sceneコマンド 25  
Deviceコマンド 13  
Drawingモード 14

## E

Edit Sceneコマンド 24  
Emphasis 21  
Eq. comウインドウ 17  
Eq. Comコマンド 17

## I

I/Oモード 21  
In Format 21

## L

Load Projectコマンド 26  
Loadコマンド 8

## N

New Sceneコマンド 23  
Newコマンド 6  
Normalモード 14

## P

Parameter Linkingコマンド 10  
PLL Lock 21  
Polarity 18  
Port Select 11

## Q

QS1  
QS1とは? 1  
インストール 4  
起動 4  
システムの接続 3  
終了 5  
動作環境 2  
はじめに 1  
パッケージの内容 2  
QS1に必要な環境 3  
QS1のインストール 4  
QS1の起動 4  
QS1の終了 5

## R

Receiveコマンド 27  
Remote Address 21

## S

Sampling Freq 21  
Save Projectコマンド 25  
Saveコマンド 7  
Sceneコマンド 13  
SWEEP 14

## T

Time Codeコマンド 22  
Transmit Sceneコマンド 25  
Transmitコマンド 28  
TRIANGLE 14

## ア

アイコン  
カスタムシーンアイコン 24  
新しいプロジェクト 23  
アドレス 6

## イ

イコライザーコマンド 13  
イコライザータイプコマンド 10

## ウ

ウインドウ  
設定 4  
動作環境 2

## カ

カスタムシーンアイコン 24

## ク

グラフィックイコライザー 13  
グラフィックイコライザーウインドウ 13

## コ

コモンウインドウ 17  
コンピューターシステムの動作環境 2  
コンフィグ 11

## シ

シーン  
新しいプロジェクトの作成 23  
エディット 24  
カスタムアイコン 24  
切り替えの実行 25  
削除 25  
シーンのエディット 24  
シーンの切り替えの実行 25  
シーンの削除 25  
システム  
設定 3  
接続 3  
周波数曲線 20

## タ

タイムコードイベントウインドウ 22  
ダミーデバイス 5

## テ

デバイスウインドウのバックグラウンド  
12

## デバイス

アドレスとは? 6  
情報 9  
セーブ 7  
設定 4  
ダミーデバイス 5  
追加 6  
デバイスとは? 6  
ロード 8  
デバイスウインドウ 9  
デバイス情報 9  
デバイスのセーブ 7  
デバイスのロード 8

## ハ

はじめに 1  
パラメトリックイコライザーウインドウ 15  
バルクデータ  
受信 27  
送信 28  
バルクデータの送信 28  
バルクデータの受信 27

## フ

フィルターウインドウ 19  
フィルターコマンド 19  
プログラムディスクのバックアップ 2  
プロジェクト 23  
シーンの追加 23  
新規作成 23  
セーブ 25  
プロジェクトとは? 23  
ロード 26  
プロジェクトのロード 26

## マ

マスターセレクト  
詳細 29  
設定 11

## ユ

ユーザー登録 2  
ユーティリティ 21  
ユーティリティウインドウ 21

## ヨ

用語集 33

# サービスについて

## ■ お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談・あるいはアフターサービスについてのお問い合わせは下記のお客様ご相談窓口へおよせください。

## ■ 保証書

本機には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、本機の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

## ■ 調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのかも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

## ● お客様ご相談窓口：PA製品に対するお問合せ窓口

### <音響システム事業部 営業部>

東京営業所	☎ 03-5488-5480	〒108	東京都港区高輪2丁目17-11
大阪営業所	☎ 06-647-8359	〒556	大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル
名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460	名古屋市中区錦1-18-28
九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社 国内 営業課	☎ 053-460-2455	〒430	浜松市中沢町10-1

### <国内営業統括本部>

北海道支店 LM 営業課	☎ 011-512-6113	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台支店 LM 営業課	☎ 022-222-6146	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10
広島支店 LM 営業課	☎ 082-244-3749	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18 ヤマハビル

## ● ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お持込み窓口

北海道サービスセンター	☎ 011-513-5036	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスセンター	☎ 022-236-0249	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
新潟サービスステーション	☎ 025-243-4321	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーポウルビル 2F
首都圏サービスセンター	☎ 044-434-3100	〒211	川崎市中原区木月1184
東京サービスステーション (お持込み修理窓口)	☎ 03-5488-6625	〒108	東京都港区高輪2-17-11
浜松サービスセンター	☎ 053-465-6711	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-877-5262	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスセンター	☎ 0878-22-3045	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
広島サービスセンター	☎ 082-874-3787	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスセンター	☎ 092-472-2134	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/カスタマーサービス部	☎ 053-465-1158	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内

※ 1994年5月1日現在

※ 所在地・電話番号などは変更されることがあります。



4 960693 063262

VR65750 R0 1 IP 94 06 100 CR

# ヤマハ株式会社

音響システム事業部 営業部 ☎ 053-460-2455

〒430 浜松市中沢町10-1